

令和7年 業種別労働災害発生状況

(令和8年1月末現在 速報値)

北見労働基準監督署

区分 業種別	令和7年			前年同期			対前年		業種割合	令和6年確定値		
	死 亡	休 業	合 計	死 亡	休 業	合 計	増減数	増減率		死 亡	休 業	合 計
全産業合計	3	338 (110)	341 (110)	5	341 (87)	346 (87)	-5	-1.4	100.0	5	355	360
製造業		69 (18)	69 (18)		54 (18)	54 (18)	15	27.8	20.2		56	56
内訳	食料品	37 (13)	37 (13)		30 (13)	30 (13)	7	23.3	10.9		32	32
	木材木製品	15 (2)	15 (2)		11 (1)	11 (1)	4	36.4	4.4		11	11
	窯業・土石	5 (1)	5 (1)		1	1	4	400.0	1.5		1	1
	金属・機械	6	6		6 (2)	6 (2)			1.8		6	6
	その他	6 (2)	6 (2)		6 (2)	6 (2)			1.8		6	6
鉱業					1	1	-1	-100.0			1	1
建設業	1	35 (5)	36 (5)	2	46 (7)	48 (7)	-12	-25.0	10.6	2	46	48
内訳	土木事業	15 (1)	15 (1)	2	20 (3)	22 (3)	-7	-31.8	4.4	2	20	22
	建築工事業	13 (3)	13 (3)		15 (4)	15 (4)	-2	-13.3	3.8		15	15
	木造建築業	1	3	4	8	8	-4	-50.0	1.2		8	8
	設備工事業	4 (1)	4 (1)		3	3	1	33.3	1.2		3	3
道路貨物運送業	1	27 (10)	28 (10)		25 (5)	25 (5)	3	12.0	8.2		26	26
その他の運輸業		11 (7)	11 (7)		6 (3)	6 (3)	5	83.3	3.2		7	7
陸上貨物取扱業												
港湾運送業												
林業	1	9 (1)	10 (1)	2	9 (2)	11 (2)	-1	-9.1	2.9	2	9	11
漁業		11	11		16 (2)	16 (2)	-5	-31.3	3.2		18	18
商業		59 (29)	59 (29)		43 (20)	43 (20)	16	37.2	17.3		44	44
清掃・と畜業		19 (10)	19 (10)		15 (5)	15 (5)	4	26.7	5.6		15	15
上記以外の事業		98 (30)	98 (30)	1	126 (25)	127 (25)	-29	-22.8	28.7	1	133	134

本統計は、労働者死傷病報告(休業4日以上)、死亡災害の報告により集計したもので、[]内の数字は、転倒災害の件数で内数です。

本統計は、速報値であり後日修正されることがあります。

本統計は、北海道労働局ホームページからダウンロードできます。

○12月の労働災害発生状況(速報値)は、前年同期と比較し、5名減少の341名となりました。しかしながら、製造業、商業等の業種では増加傾向にあり、新型コロナによる労働災害を除く発生件数は同期より増加(全産業で36名増、12.5%増。)しております。

令和7年の業種別労働災害発生状況につきましては、令和8年3月末までを集計期間とし、同期間中に把握した労働災害発生状況を計上し、令和8年4月に確定値として公表しております。

令和7年 事故の型別発生状況(全産業)



令和7年 死亡労働災害発生状況

北見労働基準監督署

件数	発生月 時間帯	事業 の 種類	職 種	災害の種類	災害発生状況の概要
				起因物	
1	1月 15時台	林業	作業員	激突され	被災者は、同僚らとともに間伐現場に入場し、単独でチェーンソーを用いて伐木作業を行っていたが、作業終了時刻になんでも戻らず、伐倒木の下で倒れた状態で発見されたもの。伐倒木の根株の近くの地面にチェーンソーが刺してあり、また、損傷のない腰袋及びヘルメットが置いてあった。
				立木等	
2	1月 14時台	建築工事業	作業員	墜落	高さ約2メートルの箇所の壁に、約1.8m×0.9m、重量約19.5kgの石膏ボードを貼り付けるため、被災者が脚立の2段目の踏みさん（高さ約1.6m）にまたがって、壁に立てかけた石膏ボードを持ち上げた際、脚立から墜落したもの。
				脚立	
3	3月 11時台	道路貨物運送業	運転手	交通事故	被災者は、当署管内の荷主先からセミトレーラ（最大積載量21.4t、積載約20t）をけん引して帶広方面に向かい走行中、路面がアイスバーンのため低速で走行していたが、右カーブでスリップして反対車線の路肩から転落し、運転席が電柱と接触して大破したもの。
				トラック	

脳・心臓疾患、ウイルス感染症等によるものは、掲載していません。